

大山街道

見どころマップ

赤坂～三軒茶屋	1A 1B	二子玉川～荏田	3A 3B	長津田～鶴間	5A 5B	厚木～愛甲	7A 7B
三軒茶屋～二子玉川	2A 2B	荏田～長津田	4A 4B	鶴間～厚木	6A 6B	愛甲～大山	8A 8B



4. 荏田から長津田まで

川崎市宮前区有馬を過ぎると、尾根道の入口から横浜市域となります。尾根の最頂部からは富士山や大山を含む丹沢山塊が一望でき、「立場茶屋」がありました。尾根道を下り、早淵川を渡ると荏田宿となります。

横浜市域の大山道には荏田宿と、更に2里の距離をおいて長津田宿との二つの宿場が置かれ、それぞれに問屋の他に旅籠屋や商家が並び、馬継場の機能を有していました。道中の道幅は市が尾村付近で8～9尺、(2.5m程度)とされ、川間橋(三文橋)で鶴見川(谷本川)を渡り、景色の良い現在の柿の木台に茶店が二軒、また恩田川の手前にも茶屋があったことが知られています。

また、現在の藤が丘駅や青葉台駅周辺の賑わいからは想像も出来ませんが、藤が丘附近からしらとり台附近の間は「谷本原」と呼ばれる寂しい林の中の山道で、昼間から追いはぎが出没したとも伝えられています。

恩田川を渡り、長津田宿を過ぎると、大山道は曲折しながら丹沢山塊や町田市を一望できる「馬の背」を過ぎ、やがて東京都町田市鶴間となります。

長津田宿

江戸初期から宿駅に指定され、江戸からの行程九里、荏田宿から二里、鶴間宿へ一里、宿場家数は幕末頃で約50軒、中心は元・長津田駅入り口付近にあたる中宿。渡辺崋山の「游相日記」に万屋新倉藤七(兎来)や河原松五郎(琴松・旅館業)とのやり取りが記されている。昭和28年の大火に往時の面影はないが幾つかの屋号等に名残を残す。

14 宝篋印塔



元・寿光院墓地(明治 10 年廃寺)にある 2 基の供養塔。元亀 4 年(1573)銘が在り、恩田郷に居住した後北條氏所縁の武士・糟屋清印が父母の十三回忌供養に建立。2 基同寸で総高 180.5cm。傍らに風化した五輪塔地輪も。

15 恩田茶屋跡

天保 2 年(1831)この道を歩いた渡辺華山の「游相日記」にも登場、柿や栗を売っていたとされ、茶屋のスケッチが残されている。

16 下宿石造物



窪田氏宅前にある常夜灯〔道祖神、文化 14 年(1817)銘〕、宿内大山講の建立。他に馬頭観音 3 基・庚申塔 2 基・地藏・弁財天等。

17 随流院 (火伏観音)

大林寺末。曹洞宗。本尊・卯年観音(岡野家守護仏)。もと天台宗・長蔦寺、慶長年間再興。

18 慈雲山大林寺



曹洞宗。本尊・釈迦如来。境内には旗本領主・岡野家累代の墓所がある。また墓地には幕末の歌人で教育者・関根範十郎信友墓、沢月堂兎来墓、初代・引田天功墓等がある。本堂には兎来作板絵が現存。

19 お七稲荷



柳田家(先祖は岡野家 4 代・房勝・幕府盗賊追捕使役の家来、八百屋お七の処刑に馬の手綱を引いた)の一角に祀り、その冥福を祈った。

20 上宿常夜灯



大石神社参道女坂に。天保 14 年(1843)宿内の秋葉講中が建立。地神塔は同 13 年の建立。昭和 62 年現在地に。

21 大石神社



祭神・大石神、神明神、稲荷神・王子神社と共に長津田鎮守。祭神は在原業平と伝え、神体・大石が在原業平の化身ともされ、種々の伝説が伝わる。

22 御野立所

大正 10 年 11 月皇太子であった昭和天皇が陸軍大演習統監の地。